

JENESYS2018 ASEAN 派遣プログラム第 10 陣の記録

テーマ：日本文化交流

派遣国：インドネシア共和国

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、日本の大学生 18 名がインドネシア共和国へ派遣され、派遣国における、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進、及び日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2019 年 3 月 5 日～3 月 13 日の日程で「日本文化交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、政府関係者との面談、日本の国際協力機構と日系企業等の視察を行い、日本と派遣国との関係、及び日本の国際貢献に関する知見を深めました。そして、学校交流において、同世代の学生との友情を育むとともに、日本や日本の文化の説明、実演を行い、日本の魅力を発信しました。また、ホームステイを行い、地域の人々と交流し、相互理解を深めました。帰国前の報告会では、プログラム中の発見と、プログラム経験を活かしたアクション・プラン(帰国後の活動計画)についてグループ毎に発表しました。

【参加者所属先・人数】創価大学 6 名、東北大学 6 名、県立広島大学 6 名

【交流時の日本事情の説明概要】

創価大学：日本のおもてなし技術について

東北大学：科学的観点から見た和食について（「うまみ」とは？）

県立広島大学：宮島バーチャル・ツアー（歴史・名所の紹介）

実演披露：ファッションショー、AKB ダンス、ソーラン節

2. 日程

- 3月5日(火) 【オリエンテーション】 成田国際空港出発、
インドネシア スカルノ ハッタ国際空港 到着（ジャカルタ）
- 3月6日(水) 【表敬訪問】在インドネシア日本国大使館
【訪問・講義の聴講】JICAインドネシア事務所
【日系企業訪問】PT. Amerta Indah Otsuka、スカブミ工場
(大塚製薬株式会社)スカブミ工場)
- 3月7日(木) 【学校交流】ダルマプルサダ大学
- 3月8日(金) 【学校交流】インドネシア大学
【ホームステイ】ジャカルタ近郊
- 3月9日(土) 【ホームステイ】
- 3月10日(日) 【文化体験】世界無形文化遺産バティック（伝統的な布製品）
【文化視察】繊維博物館、ファタヒラ広場、イスティクラル・モスク、ジャカルタ大聖堂

3月11日(月) 【日系企業訪問】PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia、
 スンター第1工場(トヨタ自動車株式会社)
 【ワークショップ】
 3月12日(火) 【成果報告会】、【関係者との歓送会】インドネシア出国
 3月13日(水) 帰国

3. プログラム記録写真

	
<p>3月6日【表敬訪問】 在インドネシア日本国大使館</p>	<p>3月6日【日系企業訪問】PT. Amerta Indah Otsuka</p>
	
<p>3月7日【学校交流】 ダルマプルサダ大学</p>	<p>3月8日【学校交流】 インドネシア大学</p>
	
<p>3月9日【ホームステイ】</p>	<p>3月10日【文化体験】世界無形文化遺産 バティック</p>

	
<p>3月10日【文化視察】 イスティクルル・モスク</p>	<p>3月11日【日系企業訪問】PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia 系企業訪問】PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia、スンター第1工場（トヨタ自動車株式会社）</p>
	
<p>3月12日【成果報告会】</p>	

4. 参加者の感想（抜粋）

大学生（創価大学）

インドネシア現地で活動する日系企業が持つ社内文化が印象に残っています。今回訪問した日系企業の PT. Amerta Indah Otsuka や PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia の社内見学を通し、活き活きと働くスタッフの方々の姿を至るところで見ることができました。インドネシア独特の宗教・文化を理解し、社員を尊重する姿勢に基づいた福利厚生がなされており、それが社員の仕事に対する満足度に繋がっていると実感しました。さらに私が気づいた点は、多くの女性社員をオフィスで目にした点でした。私たちが訪問した場所は、日系企業、大使館、JICA 事務所ですので、インドネシア全体の状況に当てはまるかはわかりませんが、多くの女性が自らの能力を十分に発揮する環境が整っていると感じました。それは、交流先の大学でもアクティブに活動する多くの女子学生に出会ったことから伺えました。国連が定める SDGs の 17 のゴールにあるように、現在ジェンダー平等の重要性が提唱されていますが、インドネシアで女性の活躍における先進的な面を見ることができ、日本が学ぶべき点もあるに違いないと感じました。

大学生（東北大学）

インドネシア滞在中常に感じていたことは、インドネシアが多民族国家として成功しているということでした。学校やお店には様々な宗教の方が存在し、顔の色なども多種多様でした。その点で問題のある様子はなく、それどころか全く別の国から来た私

たち日本人に対し、フレンドリーに接してくれました。特に広場で子どもたちが声をかけてくれたことを考えると、小さい頃から様々な人と接し生活をしているのだと感じました。逆に日本ではこのように多種多様な宗教、人種の人々と接する機会は少ないためシャイ、悪く言えば排他的になってしまうのかなと感じました。全体を通して、「価値観は人や国によって全く異なる」ということを痛感させられました。こうしたことは、いくら口で教えられたとしても、現地に赴いてその地域での生活を実際に見て、現地の人々と話してみないとわからないことだと思いました。また、このように価値観や文化は違いますが、どちらが正解ということもないのだと感じました。ホームステイ先では、日本で季節ごとに神社にお参りをしたり、ハロウィンやクリスマスに人々が盛り上がりたりすることも、日本ならではの良い文化だと言ってくれました。このようにそれぞれ国にはそれぞれの魅力があるため、自分たちの魅力を伝える際も相手に押し付けるのではなく、相手の文化や価値観も尊重することが大切だと感じました。

大学生（創価大学）

日本大使館や JICA を訪問し、日本とインドネシアのこれまでの交流や、日本がインドネシアに対して行ってきた援助などを知ることができました。また、日本が行う援助だけではなく、インドネシアが経験した災害などの対策を日本でも活用できるように協力していることを、初めて知り、一方的な援助ではなく、お互いに助け合っている事実を知りました。同じ災害の多い国として、こういった協力体制は必要不可欠なものであり、これから先もこの繋がりをより強固なものにしていくためにも、我々の世代間の交流が大切になってくるのではないかと考えました。大学訪問時、日本に興味を持つ学生と交流する機会があり、日本への興味のきっかけや勉強に対するモチベーションなどについて、たくさん話を聞ける機会がありました。母国語であるインドネシア語に加え、英語、日本語を難なく使いこなす彼らの姿を見て、大変刺激を受けました。今回のプログラムを通し、今までインドネシアに対して知らなかった知識も多く得ることができ、また大学やホームステイなどの交流を通して、彼らの生活スタイルや、文化、こういった考えを持っているのかなど、深い内容の話まですることができたことは、自分にとってとてもよい経験になりました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

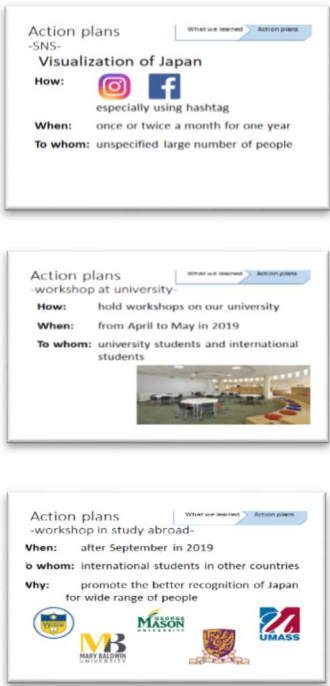
◆ インドネシア大学生（ダルマブルサダ大学）

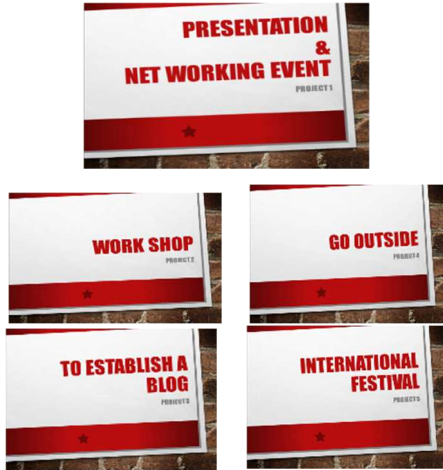
正直なところ、日本人学生が英語でプレゼンテーションするとは思っていませんでした。日本人学生のプレゼンテーションは素晴らしく、非常に良いメッセージを伝えていました。また、英語力は想像を超えていました。プレゼンテーションは日本で流行っている洋服、踊り、歌を通じて日本文化を紹介していて、興味深くとても良かったです。このプログラムを通じて日本に関する知識が増えました。また多くの新しい友達もでき、この友情を通してインドネシアと日本の今後の関係が強まっていくことを願います。訪問してくださってありがとうございます！また会いましょう。

6. 参加者の対外発信

 <p>jenesys2018indn - フォローする</p> <p>jenesys2018indn Now we have stayed Indonesia for four days. Today we are interacting with students in University of Indonesia. They welcomed us kindly, and had valued experience. We will stay with Indonesian family tonight and tomorrow.</p> <p>早いことに、渡航してから4日目です！今日は、インドネシアの東大こと、インドネシア大学で親交を深めています！学生の方々はとても温かく迎えてくださり、とても楽しく有意義な経験をしています！今夜から明日は、ホームステイ、今から楽しみです！ #jenesys2018 #インドネシア</p> <p>いいね！ 3件</p> <p>ログインすると「いいね！」やコメントができます。</p>	 <p>jenesys2018indn - フォローする</p> <p><Day 2> We visited the embassy of Japan in Indonesia in March 6th. We could understand that the relationship between Japan and Indonesia. The 60th anniversary of the restoration of diplomatic ties in 2018. We want to build up the bond from now on.</p> <p>#jenesys2018 #インドネシア #SokaUniversity #PrefecturalUniversity of Hiroshima #TohokuUniversity #60years</p> <p>いいね！ 35件</p> <p>ログインすると「いいね！」やコメントができます。</p>
<p>早いことに、渡航してから4日目です。今日は、インドネシアの東大こと、インドネシア大学で親交を深めています。学生の皆さんはとても温かく迎えてくださり、とても楽しく有意義な経験をしています。今夜から明日は、ホームステイ、今から楽しみです。</p>	<p>3月6日に在インドネシア日本国大使館を訪問し、日本とインドネシアの関係について理解することができました。2018年は日本インドネシア国交樹立60周年でした。これからも両国の友好な関係を築いていきたいです。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

 <p>Action plans -SNS- Visualization of Japan How: especially using hashtag When: once or twice a month for one year To whom: unspecified large number of people</p> <p>Action plans -workshop at university- How: hold workshops on our university When: from April to May in 2019 To whom: university students and international students</p> <p>Action plans -workshop in study abroad- When: after September in 2019 To whom: international students in other countries Why: promote the better recognition of Japan for wide range of people</p>	<p>【創価大学】</p> <p>多くの人に日本に対して親近感を持ってもらえるよう、SNSを用いて、月1~2回程度、日本についての情報を発信します。</p> <p>2019年春に、創価大学および国際基督教大学の学生と留学生をターゲットとして、JENESYSプログラムの経験を共有するワークショップを開催します。</p> <p>2019年9月から留学を予定している今回のJENESYS参加者は、日本の認知度を上げるため、各々の訪問先の人々に対し、日本の利点を、ワークショップなどの開催により発信します。</p>
---	---

	<p>【東北大学】</p> <p>留学生と日本人学生をターゲットとした、日本理解のための発表およびネットワーキングの会を開催します。</p> <p>外国籍および日本人学生に向けてワークショップを開催し価値観の違いについて話し合う機会を設けます。</p> <p>プログラムでの経験、日本の日常生活、趣味、食、国際問題に至る様々な話題を掲載するブログを開設します。</p> <p>キャンパス外の日本人に活動を知ってもらうため、地元ラジオ局もしくは新聞社に協力を依頼します。</p> <p>仙台で国際フェスティバルが開催される際、一般の方々に私たちと同様の活動を体験し、楽しんでもらえるよう、運営に協力したいと思います。</p>
	<p>【県立広島大学】</p> <p>JENESYS プログラムの経験を最大限に活かし、外国人に日本の魅力を、また日本人にインドネシアの魅力を伝えることを目的とした「Hati（インドネシア語で「心」）Project」を実施します。</p> <p>ユーチューブ・チャンネルを開設し中国・四国地域の魅力を発信します。ビデオの使用言語は日本語ですが、英語、中国語、韓国語、仏語の字幕にて展開します。インドネシア語の字幕も今後作成する予定です。</p> <p>10月14日に開催される県立広島大学祭において、訪れた人を対象にサテ（インドネシアの焼き鳥）を販売しインドネシア料理を味わってもらう。この時「Hati Project」やユーチューブでの活動の宣伝も行う予定です。</p> <p>6月末までにインドネシアでの8日間の経験を語る報告会を構内の講義室で開催し、できるだけ多くの学生に JENESYS プログラムを知ってもらい、関心を持ってもらいます。</p>